

上毛かるた初版 (昭和22年発行)

画像提供：田村 聖志 様



上毛かるた改訂版
(昭和30年発行)

画像提供：田村 聖志 様



上毛かるた再改定版<現行> (昭和43年発行)



目次

はじめに	12
KING OF JMK～おとな達の上毛かるた日本一決定戦～	18
札ッシュ!! 上毛かるたGO!	20
COLUMN① 上毛かるた絵札の変遷	22

第1章 上毛かるたはカタル【あ～お】

あ：浅間のいたずら 鬼の押出し	24
い：伊香保温泉 日本の名湯	30
う：碓氷峠の関所跡	36
え：縁起だるまの少林山	42
お：太田金山子育呑龍	48
COLUMN② 上毛かるたの題材公募	54

第2章 上毛かるたはカタル【か～こ】

か：関東と信越つなぐ高崎市	56
き：桐生は日本の機どころ	62
く：草津よいとこ薬の温泉	68
け：県都前橋生糸の市	74
こ：心の燈台 内村鑑三	80
COLUMN③ GHQとのかかるた攻防戦	86

第3章 上毛かるたはカタル【さ～そ】

さ：三波石と共に名高い冬桜	88
し：しのぶ毛の国二子塚	94
す：裾野は長し赤城山	100
せ：仙境尾瀬沼花の原	106
そ：そろいの仕度で八木節音頭	112
COLUMN④ 読み札の試行錯誤	118

第4章 上毛かるたはカタル【た～と】

た：滝は吹割片品溪谷	120
ち：力合わせる二百万	126
つ：つる舞う形の群馬県	132
て：天下の義人茂左衛門	138
と：利根は坂東一の川	144
COLUMN⑤ 国造り4本柱の札	150

第5章 上毛かるたはカタル【な～の】

な：中仙道しのぶ安中杉並木	152
に：日本で最初の富岡製糸	158
ぬ：沼田城下の塩原太助	164
ね：ねぎとこんにゃく下仁田名産	170
の：登る榛名のキャンプ村	176
COLUMN⑥ 『七五調』と『七七調』	182

はじめに

はじめまして。一般社団法人KING OF JMKの渡邊と申します。

2021年3月より毎週、まえばしCityエフエムの平日夕方の情報番組『M-wave Evening Express』の中で『上毛かるたはカタル』というコーナーを担当しています。上毛かるたに関するウンチクや札にまつわるお話などを紹介するコーナーであり、毎週私が書いた原稿をMCの青柳美保さんが丁寧に読んで下さっています。

この本は、そのコーナーで2年以上に渡ってお話してきた原稿を書籍用に編集し直したものです。あまり肩肘張らずに読んでいただき、上毛かるたに関する知識と理解を深めてもらえれば嬉しいです。

史上初の上毛かるた"全国大会"

そもそも私が代表を務める一般社団法人KING OF JMKとは、大人を対象とした上毛かるたイベント『KING OF JMK～おとな達の上毛かるた日本一決定戦～』を開催している団体です。いわゆる『上毛かるたの全国大会』であり、またそれ以外に上毛かるたに関するイベントやアプリなどの企画も行っています。

群馬で生まれ育った人ならばご存じと思いますが、上毛かるたは1947年に初版が発行されて以降、小中学校や地域の育成会などで行われ、また強い子たちは上毛かるたの競技大会にも出場します。私は現在46歳ですが、子供の頃は『上毛かるたの強い子は、足の速い子よりも女の子にモテる』なんて言われていたほどです。

もちろん私自身は決して強かった訳ではなく、女の子にモテた記憶もありません。また小学生の頃に『上毛かるたの大会で優勝したい！』なんて言ったことはなく、ただ知らないうちに近所の育成会の練習に参加させられていたような気がします。おそらくほとんどの群馬県民は私と同様、自然とやらされていたのではないでしょう。

そんな私が大人になって、上毛かるたの全国大会を開催し始めたのにはワケがあるのです。

地域魅力度最下位争いの常連"群馬県"

『上毛かるたの全国大会』構想を描き始めたのは2012年頃。当時『B-1グランプリ』というイベントが大人気でした。日本各地のまちおこし団体がその地域ならではのB級グルメを持ち寄って来場者に提供し、優勝を争うというイベントです。2012年に福岡で行われた第7回大会では60万人以上もの来場者数を記録し、テレビなど多くのメディアで取り上げられていました。

また同じ頃、香川県が俳優の要潤さんを起用し「**香川県は『うどん県』に改名しました**」という観光キャンペーンをスタート。ほとんどの日本人が讃岐うどんの存在を知っていると思いますが、そのうどんの知名度をドストレートに利用したキャンペーンは当時話題となりました。まさに日本全体に地域活性化ブームが巻き起こっていた訳です。

その為、この波に乗って我らが群馬県も・・・と個人的には思っていたのですが、ちょうど同じ頃にメディアで大きく取り上げていたのが『**地域魅力度ランキング**』でした。これはブランド総合研究所という会社が毎年秋に発表する『地域ブランド調査』の中の結果指標ですが、香川県がうどん県として話題になっていた2012年、群馬県は47都道府県中の魅力度ランキング最下位という不名誉な成績を残しました。

このランキングについては現在（2023年）もあまり変わっておらず、群馬は毎年のように最下位争いをしています。そしてテレビはその最下位争いの都道府県にスポットを当て、ワイドショーなどのネタにしています。今となってみれば『別にそんな気にしなくていいんじゃない？』という風に受け止めている県民も多く、私自身もそんな気持ちです。しかし、その頃はちょっとした危機感を感じていました。

当時、私は自動車メーカーでマーケティングリサーチの仕事をしており、自社商品のブランド力、魅力度向上などを目的とした調査を行っていました。その為マーケットの端くれとして、『**群馬の魅力度を向上させる為に何かできないか？**』と考えるようになった訳です。

あ

浅間のいたずら 鬼の押出し



史上最大の火山被害：天明の大噴火

西暦1783年（天明3年）。この年、イギリスがアメリカの独立を承認したことで8年に渡った独立戦争が終結。翌年に『アメリカ合衆国』が誕生しました。まさに世界が大きく動き始めた年と言っても過言ではないのですが、実は同じ年、悲しくも日本ではそれまで経験したのことがない大災害が起こっていました。この年の4月から断続的に噴火活動が行われていた浅間山が、7月8日に大噴火を起こしたのです。これが日本史上最大の火山被害の1つと言われる**"浅間山の大噴火"**（別名：天明の大噴火）です。

この噴火によって当時の群馬県内では多くの人が犠牲となり、更には浅間山から遠く離れた大阪や京都でも爆発音が確認できたと言われています。そして、一番の被害を被ったのが浅間山の北側にあった人口570人の鎌原村。この日、噴火による土石なだれが一気に村を襲い、村民の8割以上にあたる477人の命を一瞬にして奪ったのです。

またこの噴火によって成層圏にまで達した火山噴出物が太陽光を遮った為、日本各地で記録的な冷害となり、農作物に壊滅的な被害が生じます。これが日本の近世では最大の飢饉(ききん)とも言われる『**天明の大飢饉**』。浅間山の噴火は、当時平和に暮らしていた人々の生活を大きく揺るがしたのです。

そして、7月8日の大噴火の際に流れ出た溶岩が風化したことによって形成されたのが、この札に描かれている『**鬼押出し園**』。一面見渡す限りの溶岩の眺めは圧巻ですが、当時どれだけ恐ろしい噴火が起こったのかを肌で感じるができる場所でもあります。

初版
(昭和22年発行)



改訂版
(昭和30年発行)



再改定版<現行>
(昭和43年発行)



※群馬県「上毛かるた」利用許諾第05-02059号

鎌原村の壊滅、そして復興へ

浅間山の大噴火は1783年4月9日(旧暦)から始まり、その後1カ月おきに小規模な噴火を繰り返したのち、7月8日に大爆発を起こします。この噴火で流れ出た溶岩と山の地肌から削ぎ取られた岩などが入り混じり、岩なだれとなって鎌原村を直撃。人口570人の村は一瞬のうちに飲み込まれました。助かったのは村の中心にある『鎌原観音堂』の高台へと避難した93名。実に8割以上の村民が命を落とした訳です。

また噴火から約200年が経過した1979年(昭和54年)に専門家チームが鎌原村の発掘を行ったところ、観音堂へ上る石段の最下段のところで2体の遺骨が発見されました。1人の人間がもう1人を背負っている格好で見つかったのですが、調査の結果、2体の遺骨は両方とも女性であり、背負われていた人は推定45～60歳に対して、背負っていた人は30～50歳。年配の女性を背負って観音堂へ逃げ込もうとしたところを岩なだれに飲み込まれたと推測されています。

このように浅間山の大噴火による未曾有の大災害は鎌原村に悲しい事件をもたらした訳ですが、残された村民たちは村を捨てませんでした。この災害後、皆で力を合わせて村の復興に身を捧げたのです。

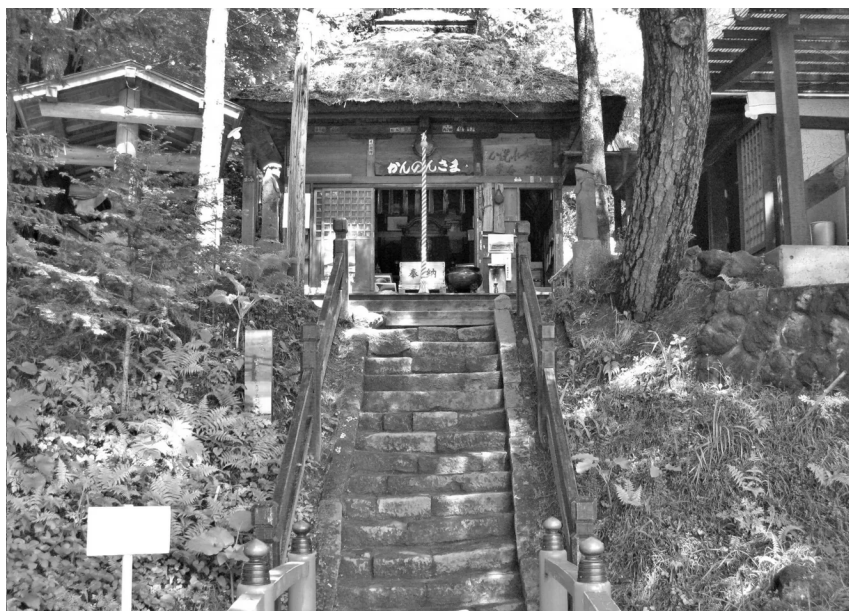
この鎌原村の復興に向けてリーダー的な役割を担ったのが、近隣の大笹集落の名主であった『黒岩長左衛門(ちょうざえもん)』。その長左衛門が復興の手始めとして行ったのは『家族の再編』でした。生き残った村人93人は皆家族を亡くしてしまった訳ですが、長左衛門は残った人達だけで新しい家族を作ろうと提案します。つまり、夫を亡くした妻と妻を亡くした夫を再婚させ、また子を亡くした人には親を亡くした子を養わせるなど、93人全員の家族構成をまとめ直したのです。

同じ集落とはいえお互い他人同士。もちろんこれには反対する者もいたとは思いますが、『残った者達が互いに血の繋がった一族と思わねばこの大災害は乗り越えられない』という長左衛門の強い決意のもと、最終的には皆納得してそれに従ったのです。

また更に長左衛門は、ほぼ全ての田畑を失ってしまった村民達に仕事を与えます。実は7月の噴火の後、鬼押出し溶岩の末端から温泉が湧いたのですが、これを約6km離れた大笹村へと引いて温泉施設を作る大工事を行ったのです。

そして、その作業を行ったのが生き残った鎌原の住民達。当時の文献には『のべ4063人に対して男には80文、女には72文を支払った』と書かれていますが、これによって彼らを経済的にサポートした訳です。

強いリーダーシップと経済的な支え、そして住民の一致団結。これら全てが上手く作用したからこそ、残された93人は誰1人村を離れることなく復興へと力を注ぎます。残念ながら湧いた温泉は徐々に温度が低下していき、建てた大笹の温泉施設も20年ほどで廃止となってしまったのですが、当時彼らが湯を引く為に築いた土塁の跡は、今も鎌原の森林の中にひっそりと残っています。



鎌原村の住民が逃げ込んだ鎌原観音堂（出典：写真AC）

世界史を動かした浅間山の噴火

このように当時の資料や言い伝えをたどると、浅間山の大噴火は想像もできない程の恐ろしい噴火であったことが分かります。浅間からほど近いところにある長野県の軽井沢では、大量に降ってきた火山灰や軽石の影響により多くの民家が押しつぶされたという記録も残っています。

更にこの噴火が原因で起こった天明の大飢饉によって日本全体が甚大な食糧危機となってしまう訳ですが、その政策の失敗によって民衆の怒りを買ったのが当時幕府で権力を握っていた老中の『田沼意次』。田沼はこれが原因となって失脚へと追い込まれる訳です。

更に更に、実は日本国内のみならず、ある世界的な大事件のきっかけになったという研究結果もあります。

それは・・・『フランス革命』。

イギリスの歴史学者の論文によると、浅間山の噴煙は偏西風に乗ってヨーロッパへも広がっていったことが分かっています。その為、日光が遮断されて日本と同様にヨーロッパでも冷害が起き、農作物の不作が相次いだのです。

そして当時、フランスで権力を握っていたのは『ルイ16世』。その傲慢な政治に対して以前からフランス国民はかなりの不満を持っていた訳ですが、そこに冷害による農作物の不作が加わったことでその不満は一気に大爆発。これがフランス革命へと突き進んでいくきっかけになったという訳です。

日本では田沼意次の失脚後、政治の中心を担ったのが松平定信。定信は後に『寛政の改革』を行い、治安対策や倹約の徹底と一緒に米の備蓄（困米）を行って飢饉に備えました。一方フランスのルイ16世は食料の確保よりも財政赤字の穴埋めを優先しまい、小麦を輸出してしまいます。その為、その後起こった大寒波の不作に対応出来ず、国民の怒りを買ってしまったのです。

アメリカ独立戦争終結、またその6年後にはフランス革命。この2つの代表的な革命は世界全体を大きく方向転換させ、近代化社会形成の礎となっています。

とはいえ、実はこの1783年は浅間山だけではなく、東北地方にある岩木山やアイスランドのラキ火山なども相次いで大噴火を起こした年。浅間山だけがフランス革命の原因となった訳ではないという説もあります。ただこのように、火山の噴火は直接的な災害をもたらすのはもちろんのこと、地球全体の異常気象やその後の歴史にも大きな影響を与えてしまうのです。

更に忘れてはならないのは、浅間山は2023年の今もなお活火山であり、時折小規模な火山活動が観測されているということ。雄大な山の景色には癒されますが、時には牙をむく存在だという事を認識しておかなければいけません。



噴火の恐怖を感じることができる鬼押し出し園（出典：写真AC）